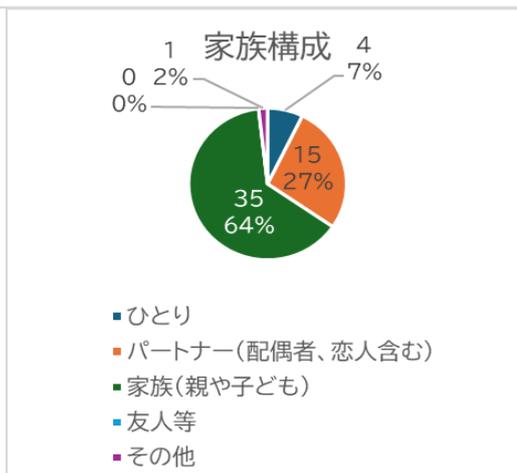
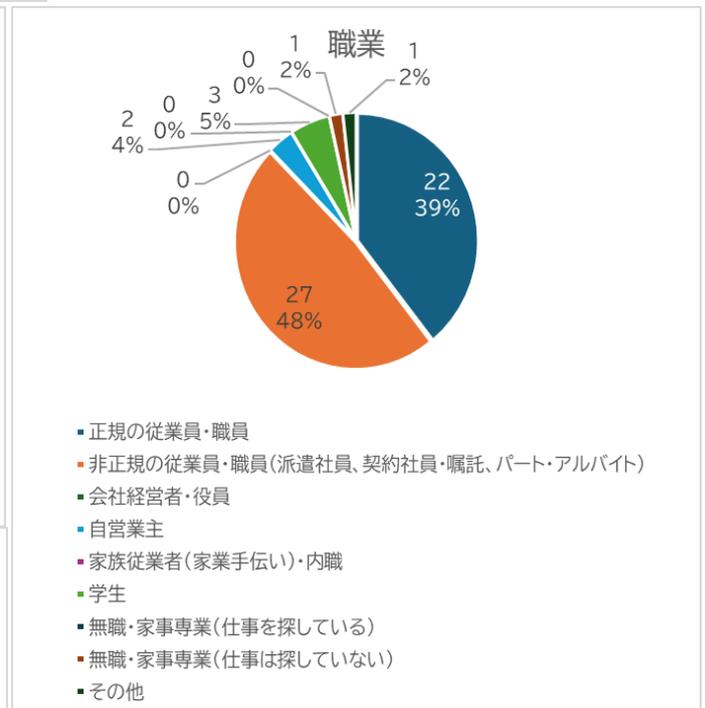
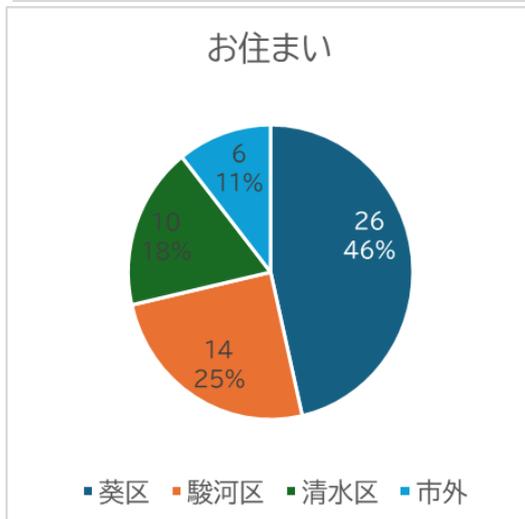
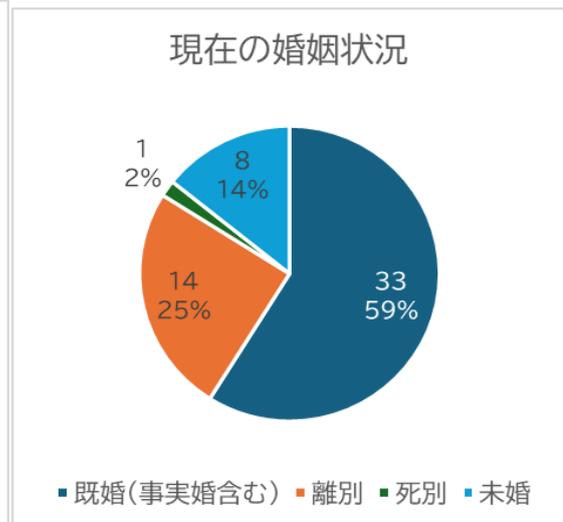
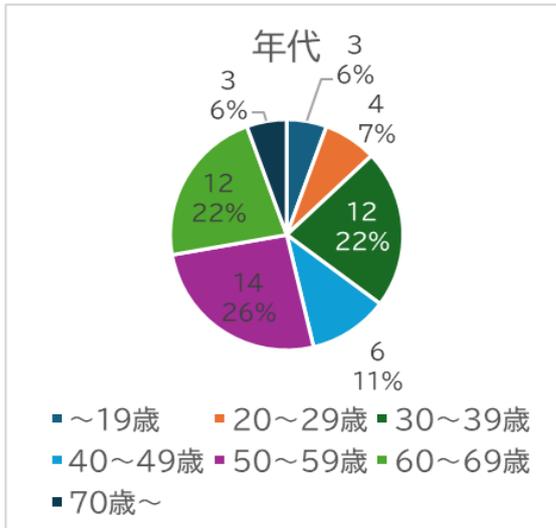


## アンケートによる「困難な問題を抱える女性の把握」調査結果

## &lt;調査概要&gt;

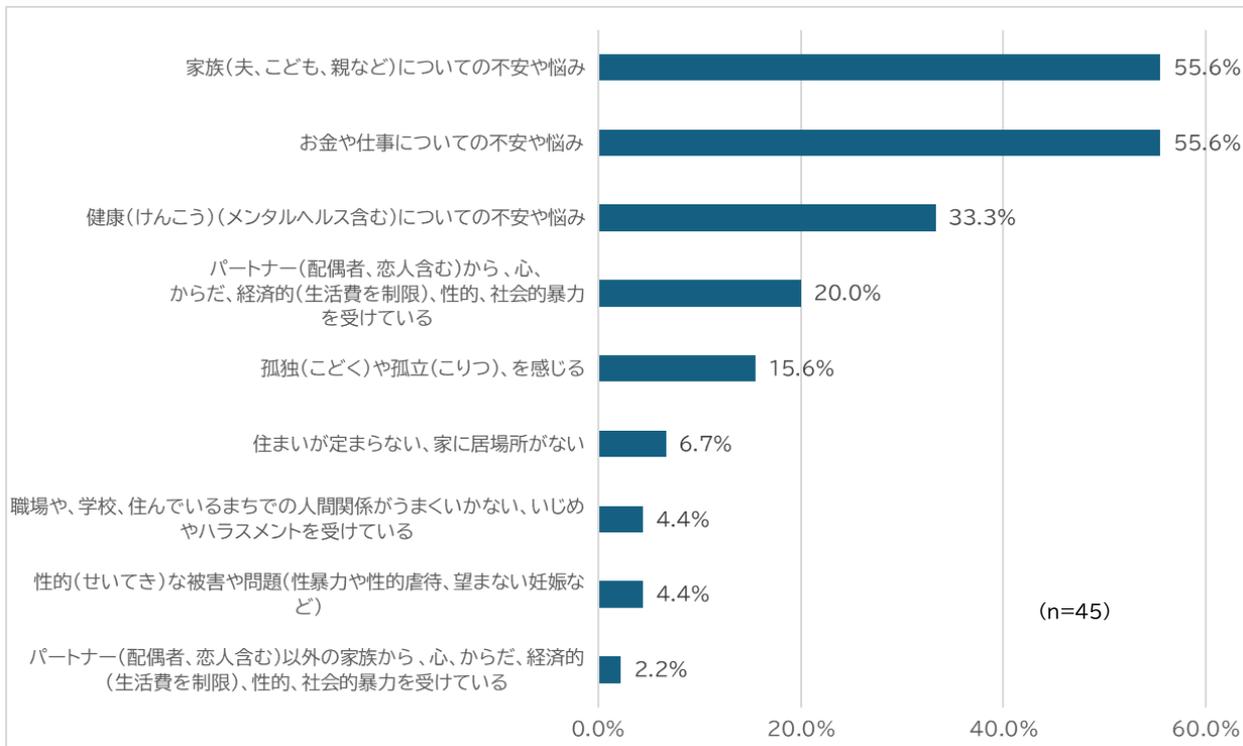
調査対象	静岡市在住・在勤の女性
調査方法	公共機関の窓口や女性支援に係る市民団体をととしてアンケートカードを配布し、Web で回答を得た。
回答数	女性 56 名



# 1 抱える不安や悩みの状況

## (1) 抱える不安や悩みの状況

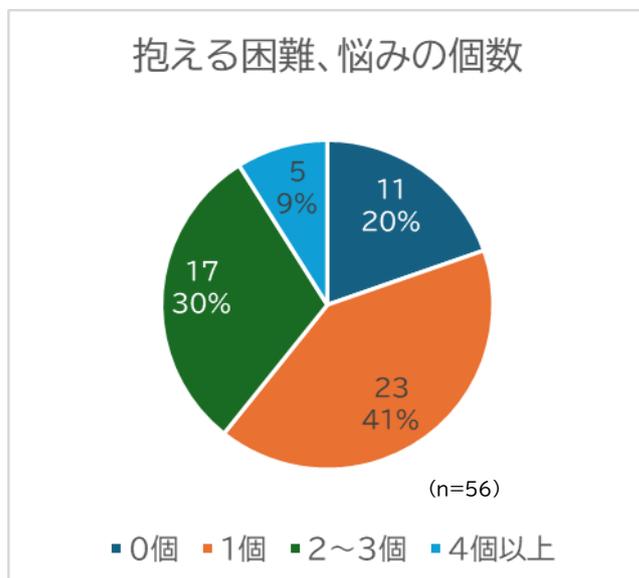
「家族(夫、子ども、親など)についての不安や悩み」と「お金や仕事についての不安や悩み」の回答が最も多く、困難を抱えている人の中では、半数以上(55.6%)が回答しています。



また、全体的に正規雇用の方と比較して、非正規雇用の方が抱える困難が多い傾向にありましたが、特に、「健康(メンタルヘルスを含む)についての不安や悩み」は4倍近くあるという結果でした。

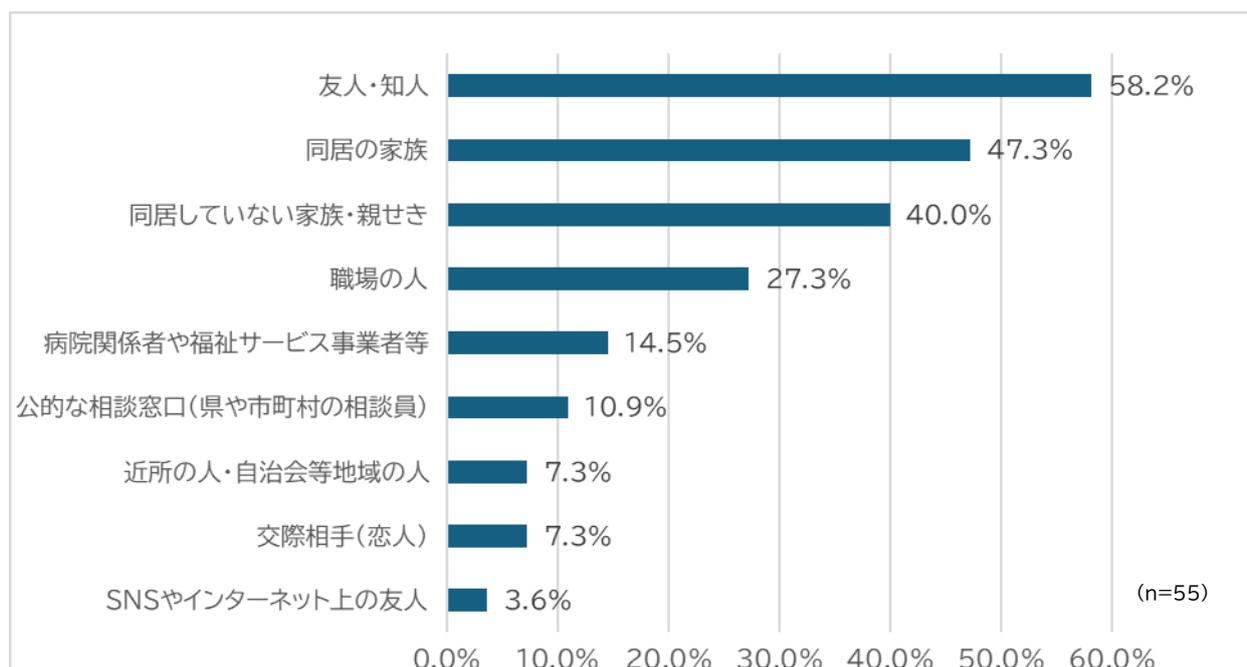
## (2) 抱える困難数

女性が抱える困難な問題は複雑かつ、複合化しているといわれており、アンケートの結果からも、複合的な困難を抱えている方が4割ちかくいることがわかります。



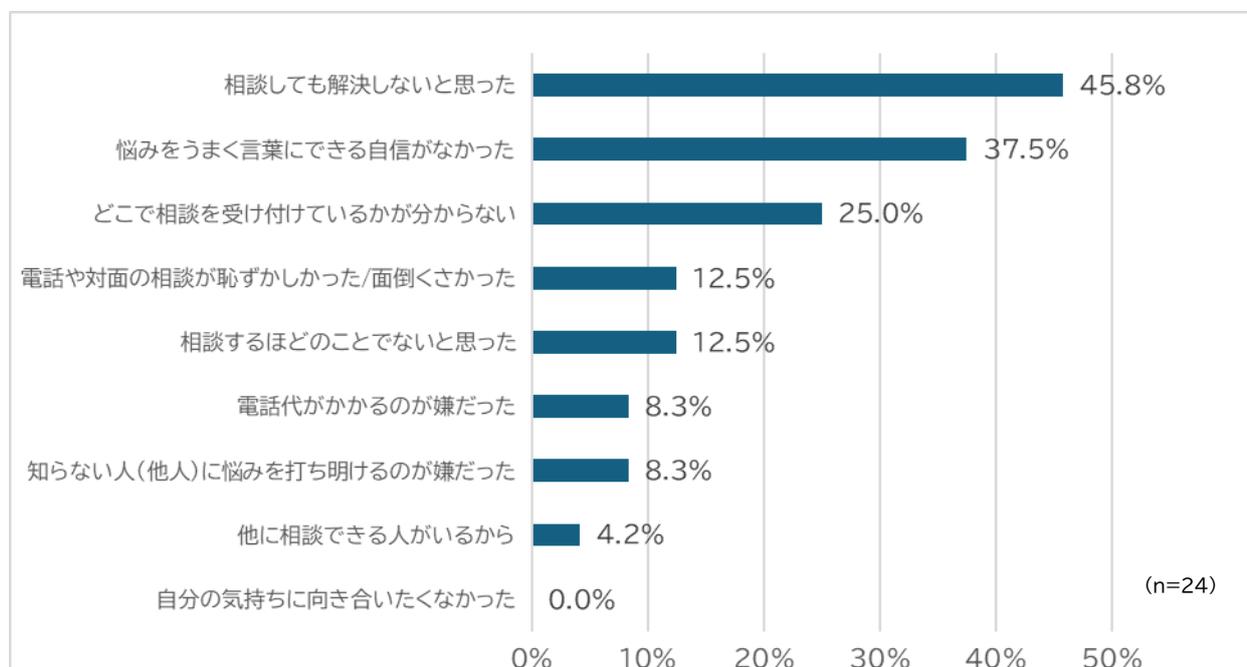
## 2 相談できる人

相談できる人は、「友人・知人」の回答が多く、次いで「同居の家族」となっています。



## 3 相談をためらう理由

相談をためらった経験がある人に対して、その理由を尋ねると、「相談しても解決しないと思った」(45.8%)が最も高く、次いで「悩みをうまく言葉にできる自信がなかった」(37.5%)となっています。

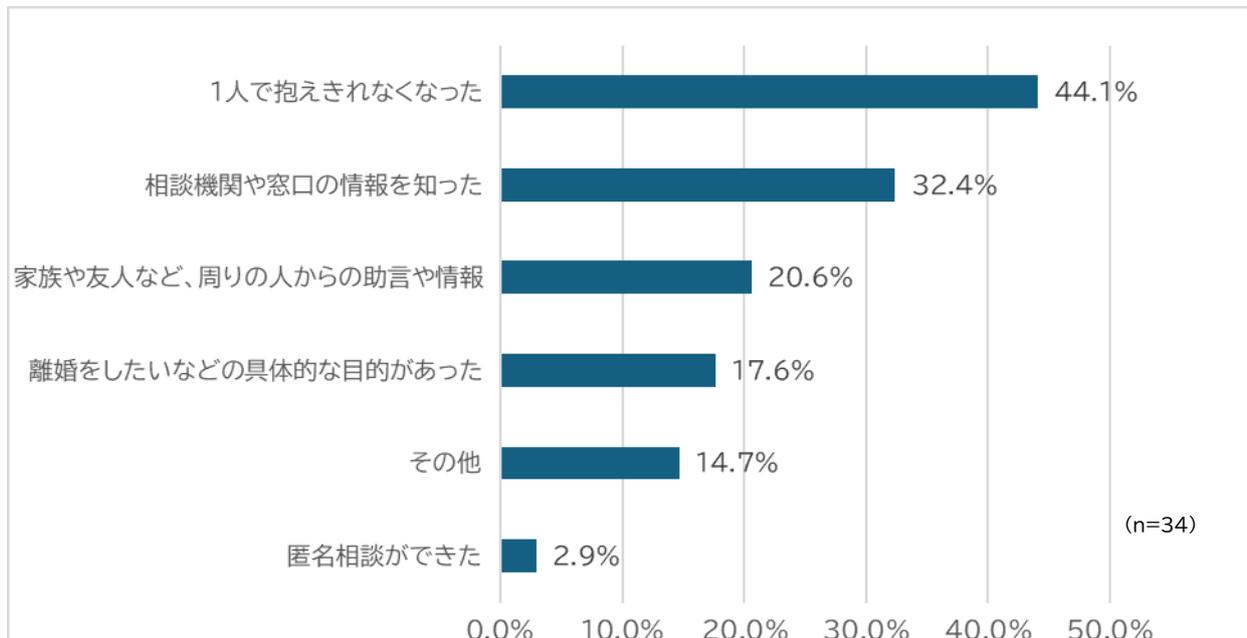


また、困難を抱えていない人は、相談をすることをためらったことがない人がほとんどでした。(約9割)

「家族(夫、子ども、親など)についての不安や悩み」については、相談することをためらう傾向が強く、7割近くが相談をためらったという結果でした。(しかし、「離婚をしたいなどの具体的な目的があった」ことをきっかけに相談につながっています。)

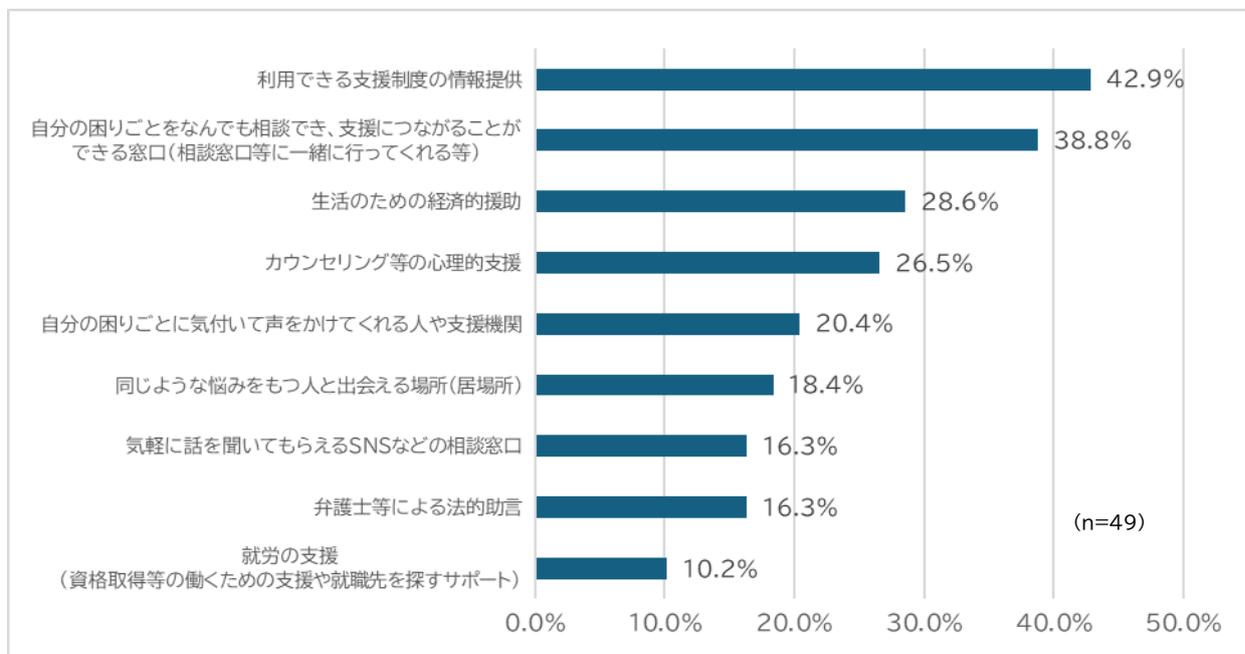
#### 4 相談したきっかけ

相談したきっかけは、「1人で抱えきれなくなった」が最も多く、次いで、「相談機関や窓口の情報を知った」でした。実際に相談のきっかけになっていることがわかるので、相談機関や窓口の情報周知に努める必要があります。

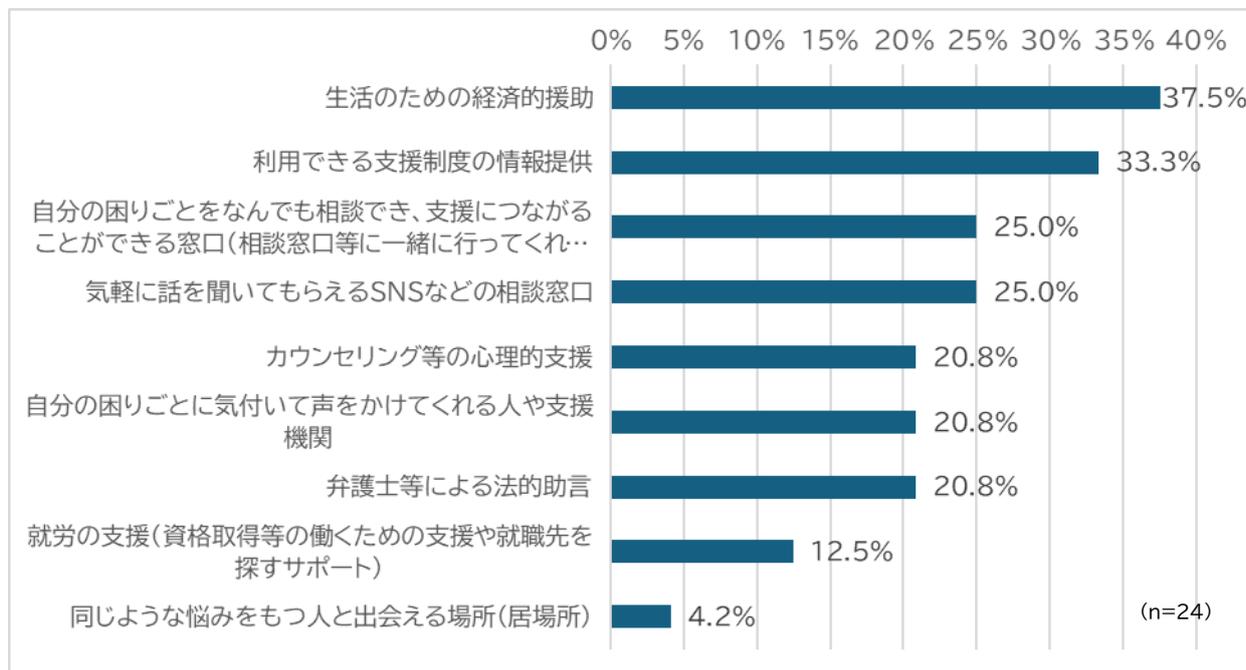


#### 5 不安や悩みを小さくするために求めるサービス・環境

求めるサービス・環境は「利用できる支援制度の情報提供」が最も多く、次いで、「自分の困りごとをなんでも相談でき、支援につながる事ができる窓口(相談窓口等と一緒にいてくれる等)」でした。



「相談することをためらったことがある」と回答した人の求めるサービス・環境は、「生活のための経済的援助」が最も多く「気軽に話を聞いてもらえる SNS などの相談窓口」の回答率も全体と比較すると高い傾向になりました。



## 6 自由記載

- ・被害を受けている時は相談できるような余裕が本人にはない。周りを気に掛けるような人や機関があるとよい。親身になって答えてくれる相談機関が増えてほしい。
- ・相談に行ってもたらい回しにされ、相談に行くことも疲れました。
- ・近くに身寄りのない人が安心して暮らせる情報がほしい。